

相撲の基本動作と技について

The Basic Movement and Techniques of Sumo

1K05A153

指導教員

主査 加藤清忠先生

直江 俊司

副査 岡田純一先生

【緒言】

相撲の手は俗に四十八手といわれ、頭で行う反り、手で行う捻り、腰で行う投げ、足で行う掛けの四つに分類され、それぞれ十二の変化があり、合わせて四十八手になる。これを見ても分かるように、寄り切り、押し出しという現在主流となっている相手を土俵外に出す技は含まれず、すべて相手を倒す技となっている。四十八手は土俵が確定されていなかった時代の産物で、土俵が整備されるにしたがって、いろいろの手が編み出された。

【第一章】基本動作と基本技

相撲は重心とバランスがとても大切なスポーツである。その中でも、もっとも足腰を鍛える代表的な練習として、四股がある。しっかりとした形で踏むと100回も踏めば汗が流れ落ちる位まで体を温めることができ、相撲の基本動作を体に覚えこませる重要な狙いもある。大相撲は「礼に始まり、礼に終わる」と言われるが、これを具体的にあらわしているのが「蹲踞」「塵浄水」という基本的な動作だ。その他基本動作、基本技に「突っ張り」「ぶちかまし」「張り手」「四つ身」「巻き替え」「おっつけ」「差し手を返す」「まわしを切る」「出足」「引き足」「回り足」「突き出し」「突き倒し」「押し出し」「押し倒し」「寄りきり」「寄り倒し」「浴びせ倒し」といったものがある。

【第二章】投げ手

豪快な「上手投げ」と小兵力士の機敏な動きから繰り出される「下手投げ」はどちらも決まり手の

中で、最もポピュラーなものだ。その他の投げ手には「すくい投げ」「小手投げ」「上手出し投げ」「下手出し投げ」「腰投げ」「首投げ」「一本背負い」「二丁投げ」「やぐら投げ」「掛け投げ」「つかみ投げ」といったものがある。

【第三章】掛け手と反り手

掛け手と反り手には「内掛け」「外掛け」「ちょん掛け」「切り返し」「河津掛け」「けたぐり」「け返し」「三所攻め」「渡し込み」「二枚げり」「小またすくい」「外小また」「けたぐり」「け返し」「三所攻め」「渡し込み」「二枚げり」「小またすくい」「外小また」「大また」「つま取り」「小づま取り」「すそ取り」「すそ払い」「足取り」「居反り」「たすき反り」「外たすき反り」「撞木反り」「掛け反り」「伝え反り」といったものがある。

【第四章】ひねり手

大相撲の決まり手の中でも「突き落とし」は毎場所のようにランキングの上位を占め、寄り、押しと並ぶポピュラーな技である。その他ひねり手には「巻き落とし」「とったり」「逆とったり」「肩透かし」「内無双」「外無双」「ずぶねり」「上手ひねり」「下手ひねり」「巻き落とし」「とったり」「逆とったり」「肩透かし」「内無双」「外無双」「ずぶねり」「上手ひねり」「下手ひねり」「綱打ち」「さば祈り」「波離間投げ」「大逆手」「とっくり投げ」「かいなひねり」「首ひねり」「合掌ひねり」「小手ひねり」といったものがある。

【第五章】特殊技

「引き落とし」「引っかけ」は相手が突いてくるか差してきたとき、そのどちらかの手か、両手を素早く引っ張り込んで、前に落とす技である。その他特殊技には「はたき込み」「素首落とし」「つりだし」「つり落とし」「送り出し」「送り倒し」「送りつり出し」「送りつり落とし」「送り投げ」「送り引き落とし」「送り掛け」「割り出し」「うっちゃり」「きめ出し」「きめ倒し」「後ろもたれ」「呼び戻し」といったものがある。

【第六章】非技と禁じ手

「勇み足」「腰砕け」「踏み出し」「つき手」「つきヒザ」は負けとなってしまう勝負結果である。「禁じ手八か条」というものがあり、握り拳で殴ること、頭髪を故意につかむこと、目またはみぞおちなどの急所を突くこと、前立てみつをつかみ、また横から指を入れて引くこと、両耳を同時に両てのひらで

張ること、ノドをつかむこと、胸、腹をけること、一指、二指を折り返すことは禁止されており反則負けとなる。

【結語】

最近、これぞお家芸といった切れ味のいい技が影を潜めつつある。平成十九年七月場所のデータを見ても、決まり手は寄り切り、押し出し、はたき込み、突き落とし、引き落としが上位五位までのランキングとなっており、実に 66.9%を占めている。幕内全体でも十五日間の技の数は二十七。協会の制定した八十二の三分の一に過ぎない。小兵が大型力士をものの見事にひっくり返す「内掛け」などは一番もなかった。かつて内掛けの名人といわれた力士が、ファンの人気を集めていたことを思うと、寂しい限りである。